



中薬膳師平日コース 14 期生 竹林 千波

答 辞

金木犀の香る秋の爽やかなこの日に無事卒業出来ますこと、またお忙しい中このような素敵な卒業式を開いていただき一同心より御礼申し上げます。

教科書の重さをズシリと感じながら希望と不安を胸に教室の扉を開けた日を昨日の事の様に思い返し月日の過ぎる早さに改めて驚かされます。

私が薬膳を学ぼうと思ったきっかけは毎年健康診断で要観察とされる検査結果と年々衰える気力・体力を改善するものを探していた時に知人から薬膳を勧められ、中国の文化や食生活にも興味があり、兎に角やってみよう!という軽い気持ちからでした。

しかし実際授業が始まると、意味や読み方の解らない漢字や単語に悩まされ、日常生活の中で勉強時間の確保が中々出来ず、睡魔に襲われながら仕上げた宿題には自作の漢字を書いてしまったりと大変な日々でした。補講にいらしていた先輩方からは「今は解らなくてもスツと腑に落ちて必ず解る時が来るから大丈夫」と励ましていただきましたが半年近く過ぎてても理解が深まらず、私には難し過ぎるのかもしれないと落ち込む事もしばしばでした。

途中東日本大震災が発生し授業が休講となり、4月に授業が開講された時は安堵と勉強を再開出来る喜びと有り難みを感じ、自分がいつしか薬膳の魅力に引き込まれていた事に気がつきました。

劉先生の中国の故事や臨床体験を交えた興味深いお話に聞き入り、安里先生の机上ではわからない調理のコツやポイントに感動し、平尾先生の丁寧な添削して下さった宿題の返却に一喜一憂した今日までのこの一年間、本草薬膳学院という“府”の中で母のような温かさを以ってご指導いただいた事より感謝致します。

私達の学びは入り口からやっと一歩を踏み出したばかりです。今後益々注目されるであろう薬膳の長い道を磨穿鉄硯歩んで行きたいと思っております。今度も末永くご指導宜しくお願い致します。

最後になりますが、本草薬膳学院の更なるご発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

祝 辞

講師 安里 清子



十四期生、通信生の皆様
本日は、ご卒業おめでとうございます。

今年三月十一日の東北大地震と
原発事故に見舞われました。

被災された方々には早く復興され、元の平穏な生活に戻れますように願っております。

皆様も余震の続く中での勉強は大変だったと思います。今日、無事ご卒業出来ますことは大変喜ばしい事と思います。

さて、原発事故で大変関心の高まっている放射能による食品汚染問題ですが、先日の劉先生の講座でも好評だったそうです。



これからは中国三千年の歴史ある中医学で学んだ知識を大いに活用して頂きたいと思えます。
これは劉先生の（放射能による食品汚染についての）記事の抜粋ですが、
『放射能から身体を守るには「薬膳で身体の免疫力を上げて内臓の働きを活発にし、放射能でダメージを受けた身体の熱を冷まして血の循環をよくし、体内の毒を出すこと」と、記載されていきました。詳しいことは先生の書かれた記事を参考になさるとよいと思えます。

今日の卒業式は終りではありません。もっと深く中医学を究めて頂きたいと思えますので、引き続き学院の講座の受講をお勧めいたします。

簡単ではございますが、皆様のご健康とますますのご活躍を祈念致しまして、講師代表のお祝いの挨拶と致します。おめでとうございます。

— 卒業式の会場 —

YUJIN 東京(ユジントウキョウ)

東京都中央区日本橋 2-6-5

日本橋二丁目ビル 1F

TEL : 03-3548-8800

